

委託研究2008年度研究活動報告

雑誌名	Scientific approaches to language
巻	8
ページ	205
発行年	2009-03
URL	http://id.nii.ac.jp/1092/00000735/

平成 20 年度 科学技術振興機構 社会技術研究開発センター
による委託研究『言語学・応用言語学に基づく、外国語能力
の検査、判定、評価法の開発』（研究機関代表者：長谷川信子）

2008 年度 研究活動報告

本研究は、2004 年 12 月より 5 年間の計画で進行中の他大学
（首都大学東京、東北大学、広島大学、他）との共同研究プ
ロジェクト「脳科学と教育」タイプ（II）『言語の発達・脳の
成長・言語教育に関する統合的研究』（研究代表者：首都大学
東京大学院・萩原裕子教授）におけるサブ研究領域としての研
究である。プロジェクト全体としては、言語の発達と脳の発
達の関連を教育との関わりも含め、言語テスト、脳機能計測
などにより明らかにすることを目指しているが、CLS 担当の
上記サブ領域では、早期英語教育で得られる英語力の評価と
判定を中心に調査・研究し、2011 年度から小学校高学年に必
修化される英語活動に、具体的な指針となり得る活動内容や
評価法を提示することである。

その目標に鑑み、昨年度までに、児童英語の内容的基盤と
なる「早期英語教育用語彙リスト」の編纂し、それを基に開
発した「早期英語語彙テスト」および「日本語語彙テスト」
（(独)メディア教育開発センター・小野博教授監修）、「児童
の言語環境調査アンケート」と共に総勢 700 名余りの児童に
実施したが、今年度は、(i) そのデータを集計・分析、およ
び、(ii) 児童英語語彙リストの特徴を言語学的な観点から分析、
の 2 点に絞って研究を遂行し、開発したテストの信頼性、英
語の語彙力と日本語の語彙力の相関、児童英語教材に見られ
る語彙の特殊性やそこから派生できる文のタイプなどについ
て、興味深い知見を得た。これらの成果は、AILA や JALT、
JACET といった国内外の英語教育学関連学会において発表
した。